

「文化財」って何だろう？

1. 「文化財」を知っていますか。

みなさんは「文化財」という言葉を耳にしたことがありますか。ひょっとしたら、ふだんあまりなじみのない言葉かもしれません。でも、これは大事な言葉なのです。

文化財とは、「文化」の価値を持った「財産」のことです。文化とは、「人間がこれまでの歴史の中でつくり出してきた学問や芸術や宗教など」といわれますから、そうしたものが今に伝えられている建造物や絵、彫刻、工芸品、書物などが文化財ということになるでしょう。また、これら以外にも音楽や演劇などのなかで、後世に伝えていく価値のあるものも文化財のなかに入ります。これらは目に見える「物」ではありませんから、無形文化財といわれます。

このように、一口に「文化財」といってもさまざまな形があることがわかります。大きく整理すると次のようになります。

有形文化財（「物」として伝えられている文化財）

寺・神社・やしき・蔵などの建物、橋や石垣のような建造物、木や石でできた像、絵、彫り物、刀や武具のような工芸品、古い書物や巻物など。

無形文化財（「物」ではなく、「行う」ことで伝えられている文化財）

演劇、音楽、工芸の技術（たとえば日本刀をつくる技術）など。

このほかにも、

民俗文化財（民俗（人々の生活）のなかに伝えられている文化財）

祭り、踊り、これらに使われる衣服や道具など。

こういったものが文化財といわれるものです。



(熊野市紀和鉾山資料館 所蔵の刀と槍)

2. あるある！ 文化財

文化財には、姫路城（国宝・世界遺産）・本宮大社（重要文化財・世界遺産）のように有名なものもありますが、それ以外に、私たちの身近にも文化的な価値をもったものがたくさんあります。みなさんの住む町のまちかど・道のわき・近所の古い家・・・思わぬところに文化財が残されているものです。

市内には、世界遺産（1カ所）、国指定文化財（3カ所）、県指定文化財（12カ所）、市指定文化財（119カ所）、国登録有形文化財（2カ所）をはじめ多くの文化的価値のあるものが各地に残っています。

市内にある文化財には、鬼ヶ城・獅子巖・楯ヶ崎のような名勝（景色のすぐれた所）、一里塚・赤木城跡・田平子峠刑場跡のような史跡、寺・神社のような建造物、すみ絵・仏教画のような絵画などがあります。また、これら以外にも、人々の生活のありさまを伝える民俗文化財とよばれるものがあります。このうち、記念碑・道しるべのようなものは有形民俗文化財、祭り・踊りのようなものは無形民俗文化財とよばれます。



（楯ヶ崎）

3. 文化財は歴史を語る

文化財は、単に古いだけ、珍しいだけのものではありません。文化財は、その時代の人々が実際に作ったり、使ったり、鑑賞してきたもので、いわば時代に生きた人々の工夫を見ることができるものといえます。

私たちの熊野市にも各地に文化財が残されています。この本は、そのうちの主なものを歴史とのからみの中で紹介するものです。みなさんが少しでも文化財に興味をもってくれらると嬉しいです。